

## 分散値の区間推定（母平均値既知）

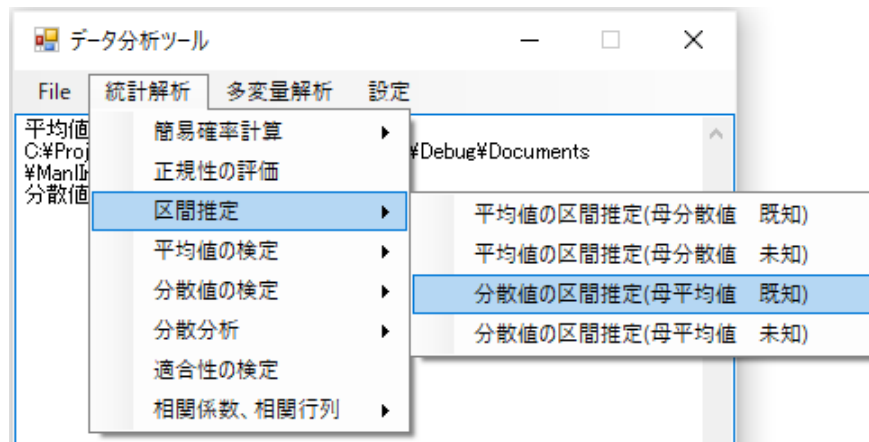
### 1. 目的

母平均値が既知の場合の1群のデータの分散値の区間推定します。

### 2. 使用法

#### (1) メニューの選択

メニューの「統計解析→区間推定→分散値の区間推定（母平均値 既知）」を選択します。



#### (2) パネルが表示されます。

信頼水準の確率を指示します。指定値を $\alpha$ とすると、 $1-\alpha$ を信頼区間として計算します。通常5%を利用するので、デフォルトで5が指定されている。変更可能。

計算結果が表示される部分

#### (3) データの入力

パネルの下の部分にデータを入力します。

データの入力方法は以下の2つあります。

- ① 表計算ソフトのデータをコピーして貼り付ける方法
- ② 直接数値を入力する方法

左の表のデータを右にコピーします。

	ID	値
1	ID-01	33.24
2	ID-02	69.39
3	ID-03	85.56
4	ID-04	44.23
5	ID-05	25.23
6	ID-06	57.55
7	ID-07	79.63
8	ID-08	33.80
9	ID-09	92.43
10	ID-10	62.22



表データを貼り付け <input checked="" type="checkbox"/> 先頭行			
	N0	ID	値
▶	1	ID-01	33.24
	2	ID-02	69.39
	3	ID-03	85.56
	4	ID-04	44.23
	5	ID-05	25.23
	6	ID-06	57.55

#### (4) 計算条件の指定

平均値: 
 信頼水準  $\alpha$  (%):  (100- $\alpha$ )% を信頼区間とします

平均値に 母集団平均値を指定します。

“信頼水準”には デフォルトで 5 が指定されています。

100- $\alpha$  を信頼区間とします。これは変更できます。

#### (5) 計算実行

**計算実行** ボタンを押すと計算されます。

#### (6) 計算結果

自由度:   
 標本平均値:  分散値:   
 信頼区間: (  ,  ) **分布関数**

信頼区間が (245.21 ~ 1546.90) と計算されました。

この様子は **分布関数** を選択することで、直観的に判断できます。

次のグラフが表示されます。

